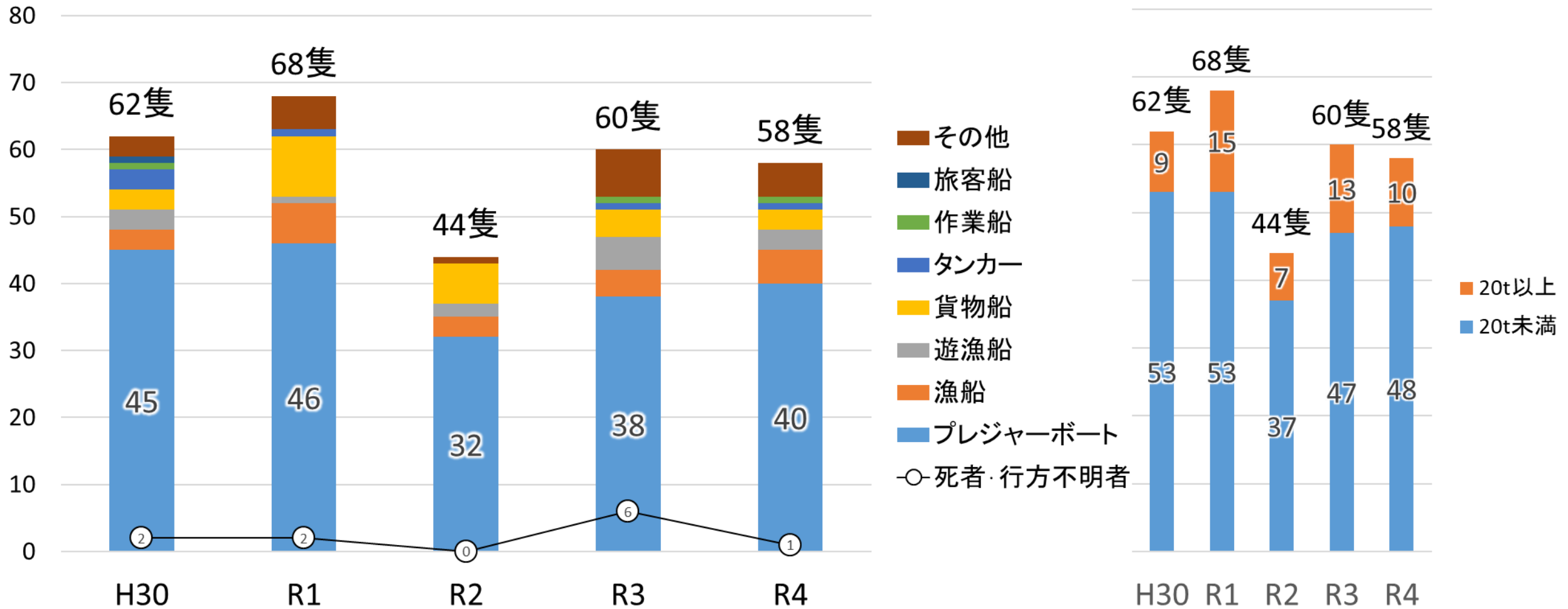


# 横須賀海上保安部からの連絡事項

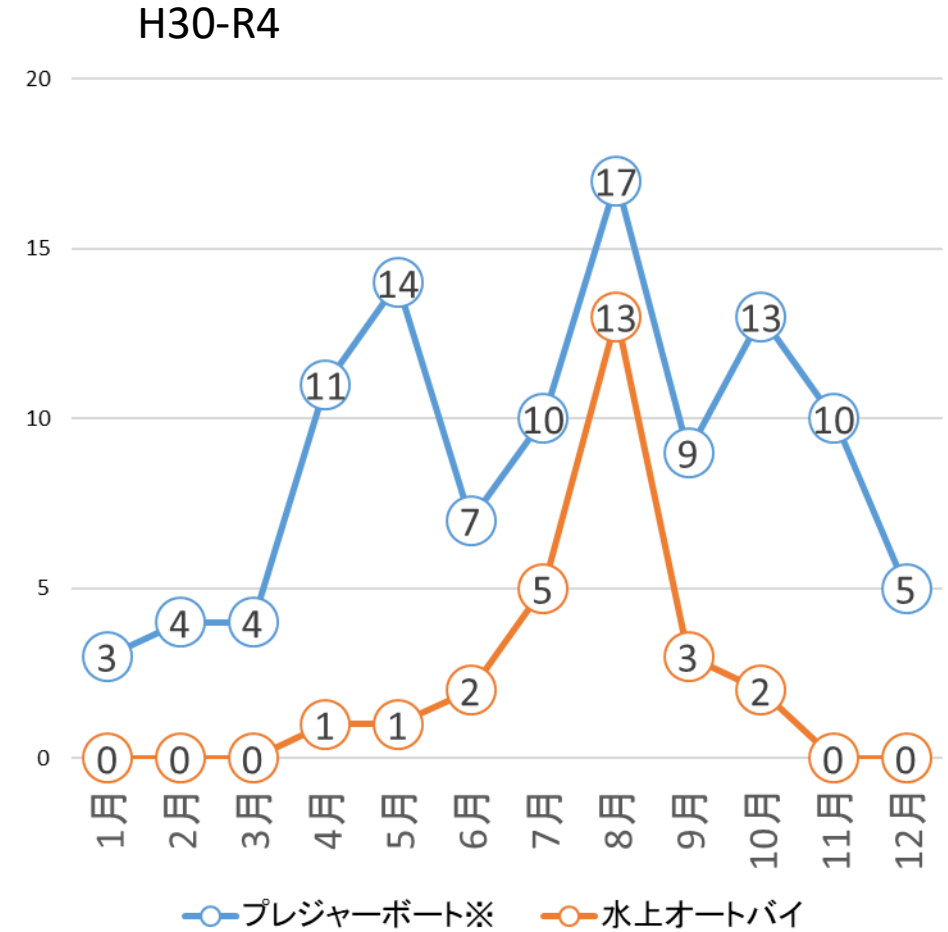
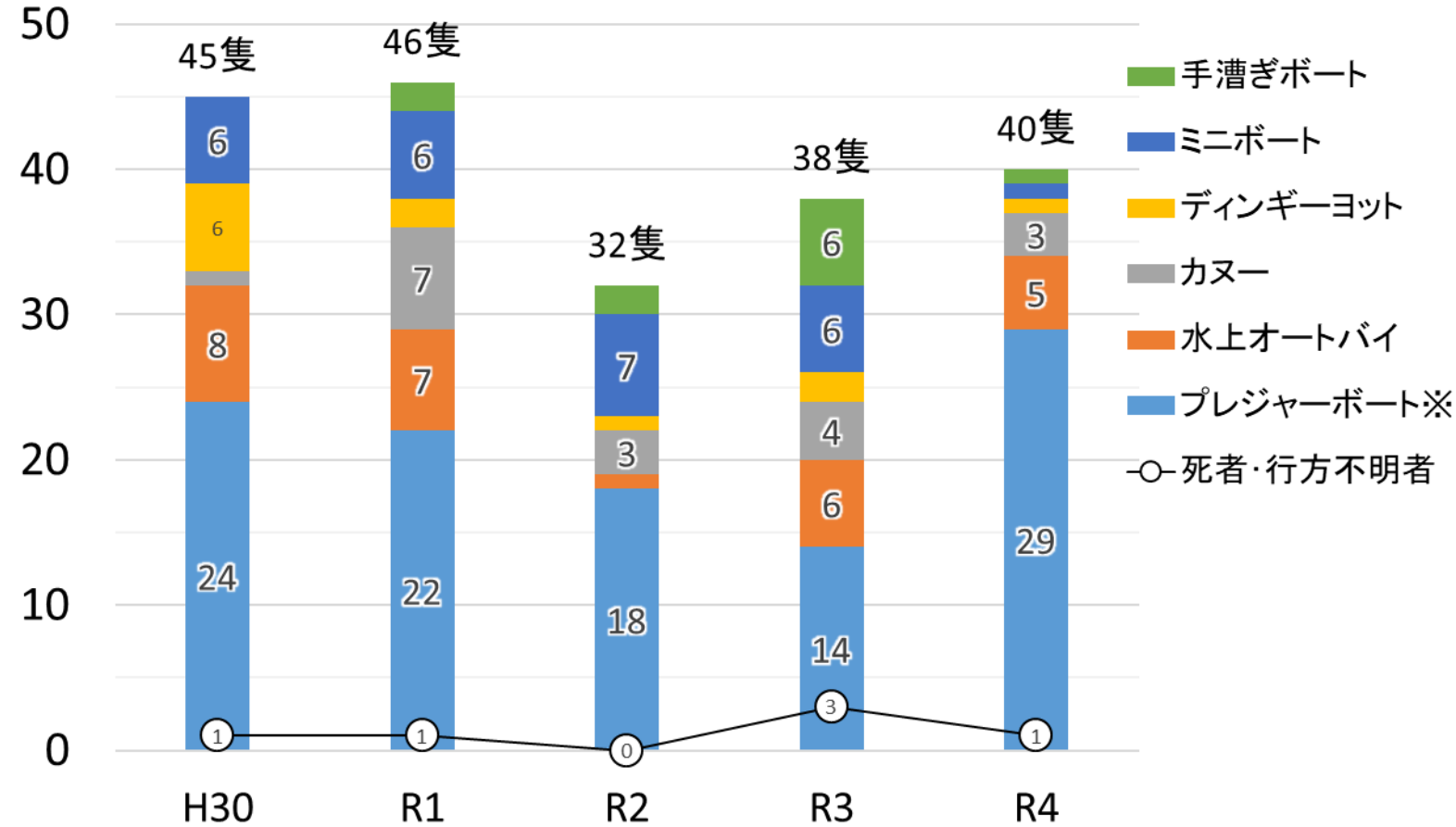
令和5年7月19日  
神奈川地域連絡会

# ①-1 船舶海難発生状況(H30~R4、横須賀海上保安部／湘南海上保安署管内)



船舶海難隻数は、昨年**58隻**であり、ここ数年60隻前後で推移している。  
 そのうち、20トン未満の小型船舶が50隻弱と全体の85%を占めている。

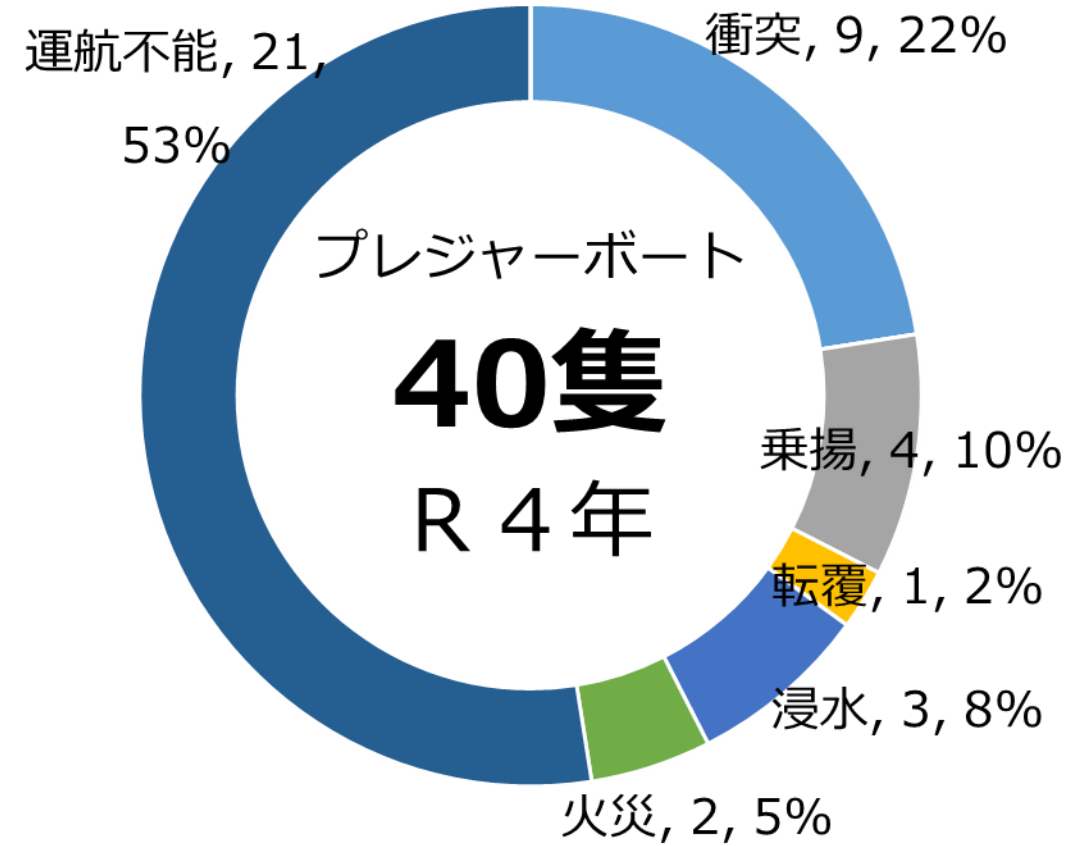
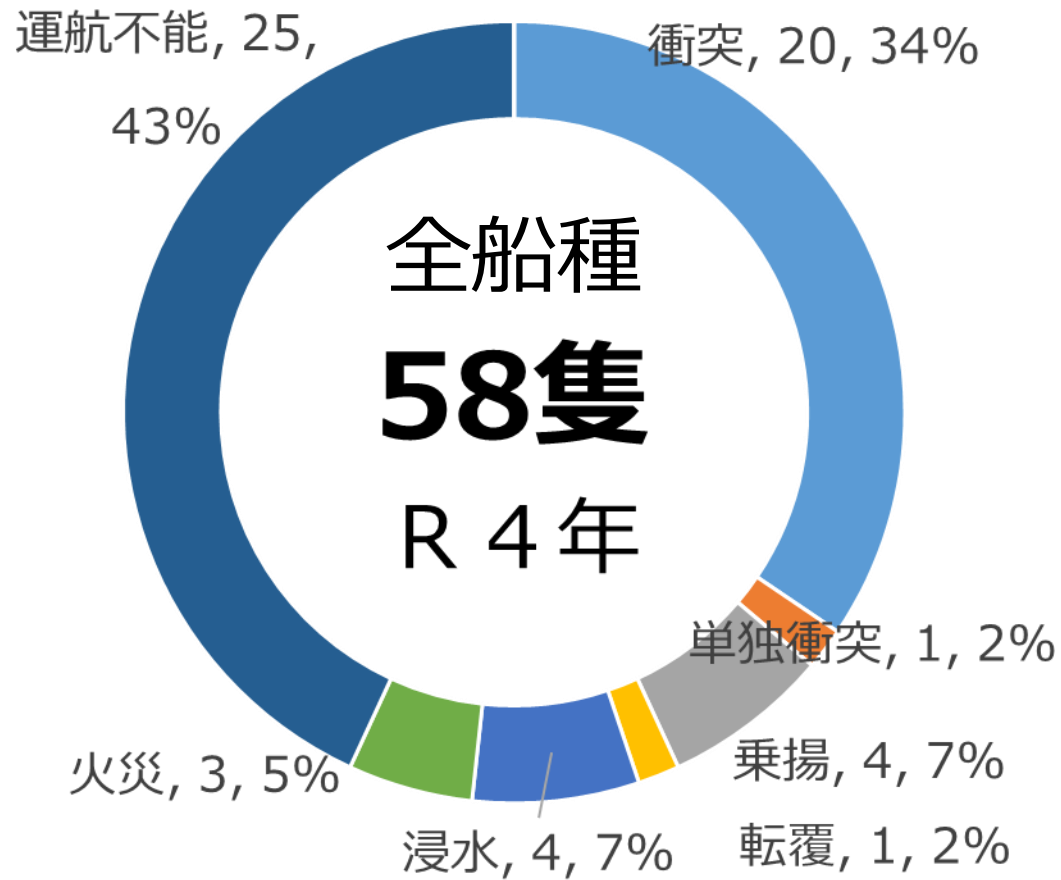
# ①-2 プレジャーボート海難発生状況(H30~R4、横須賀海上保安部／湘南海上保安署管内)



昨年の海難プレジャーボート40隻中、プレジャーボート※29隻(73%)、水上オートバイ5隻(13%)。発生のパークは、プレジャーボートが4月、8月、10月(年3回)、水上オートバイが8月。

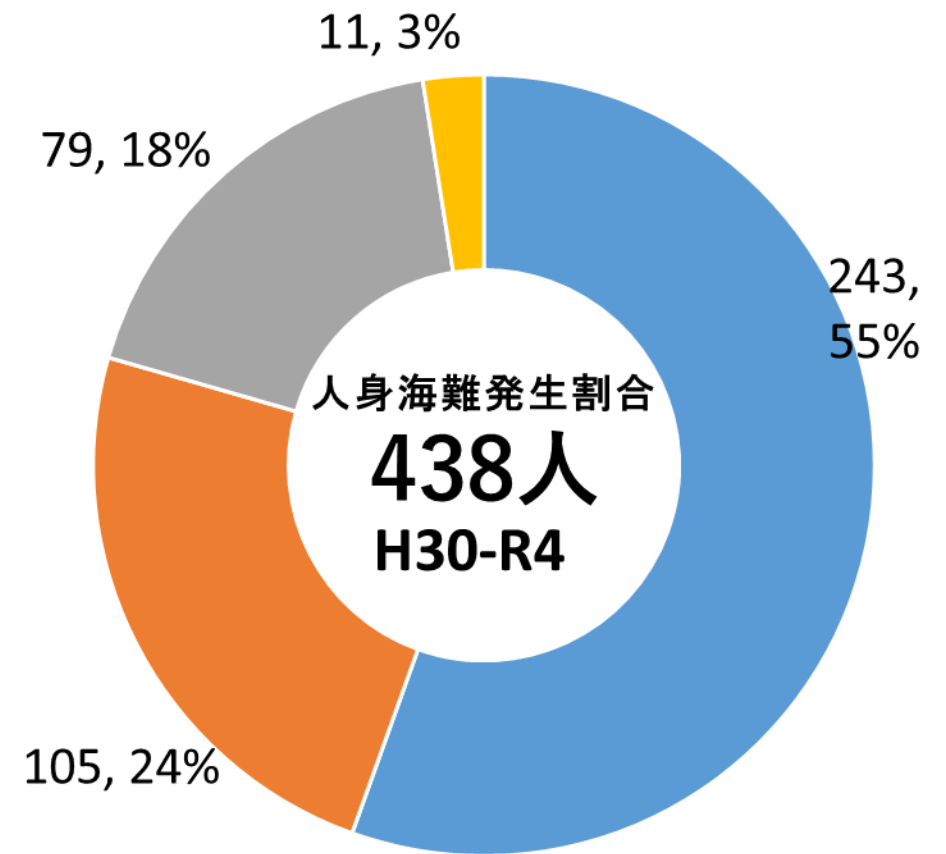
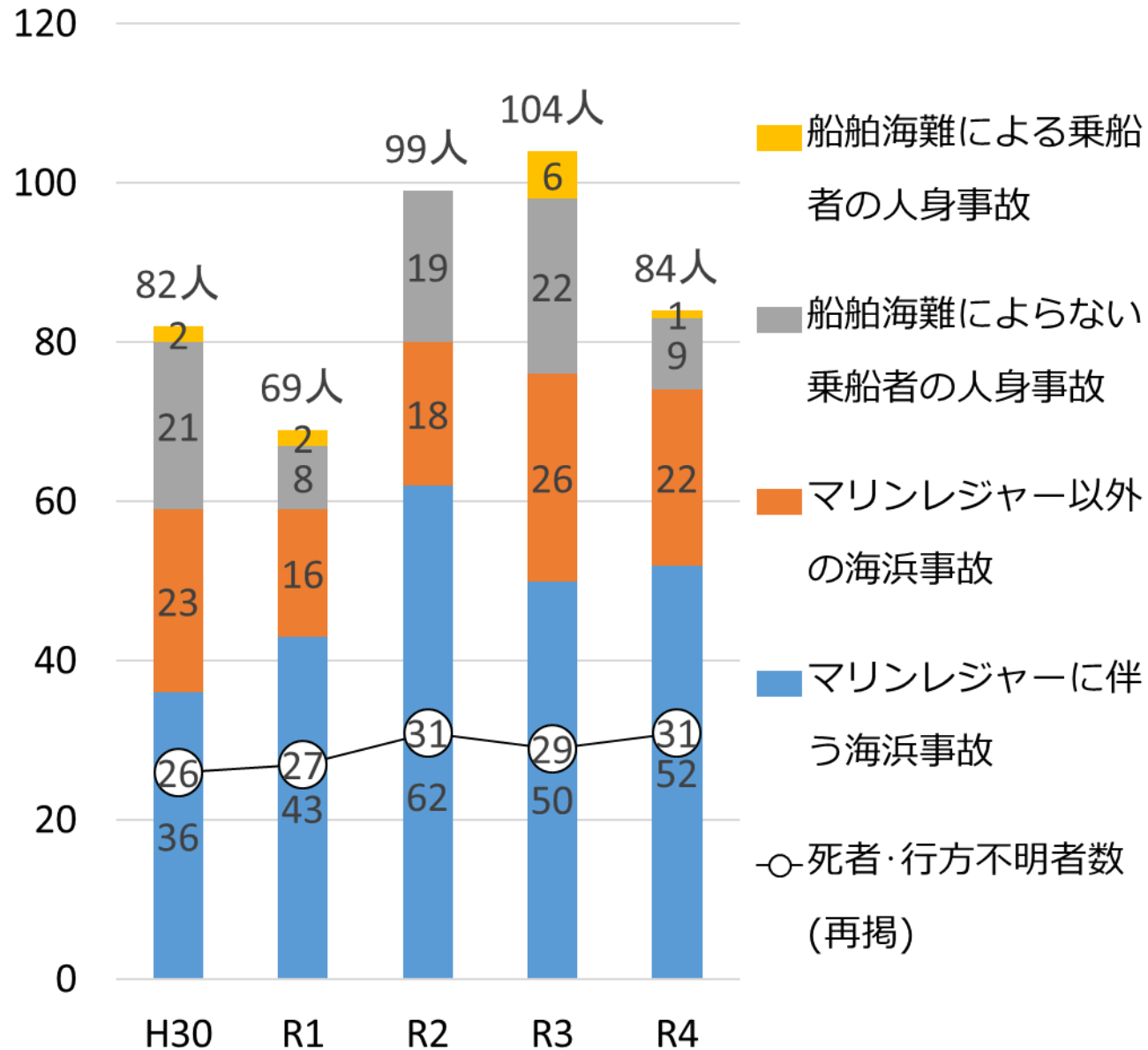
※「プレジャーボート※」水上オートバイ等表中の船種を除く

①-3 海難種類別の発生割合(H30~R4、横須賀海上保安部／湘南海上保安署管内)



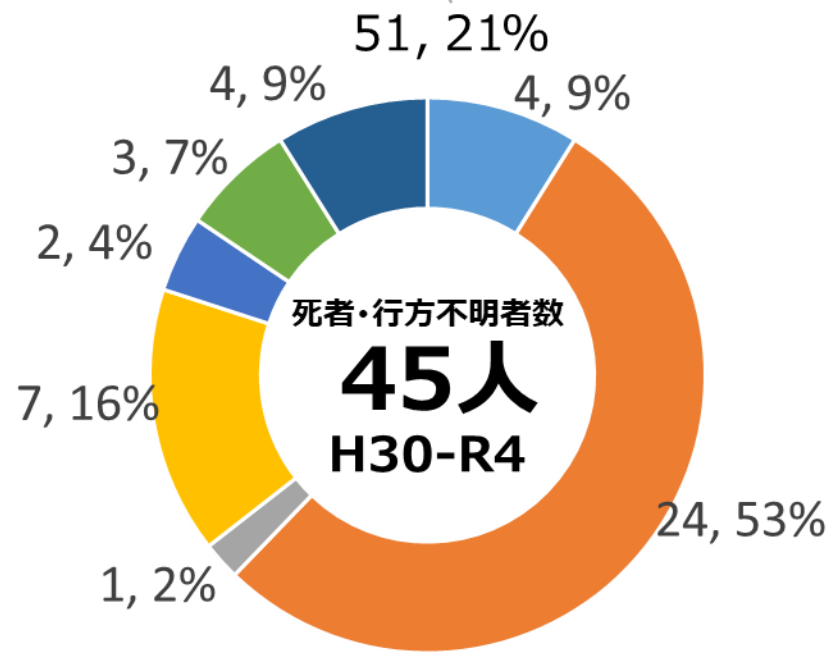
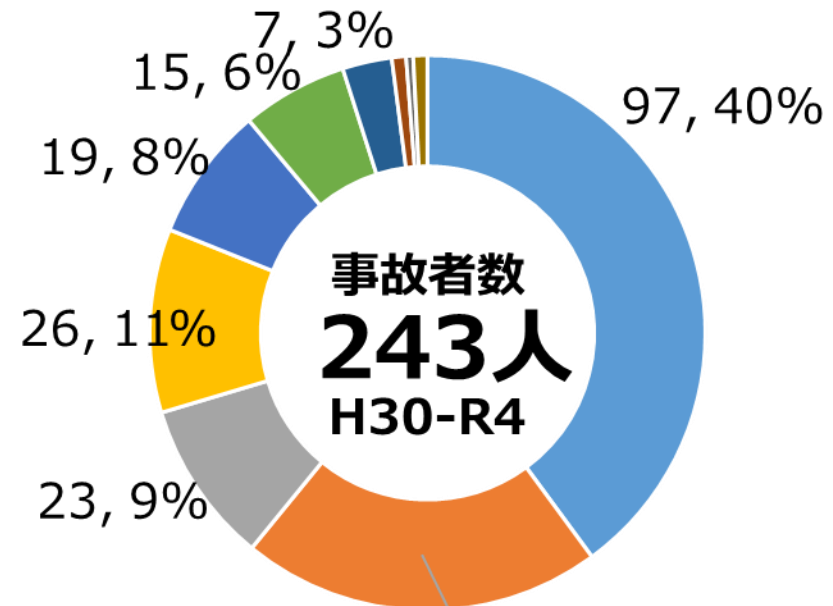
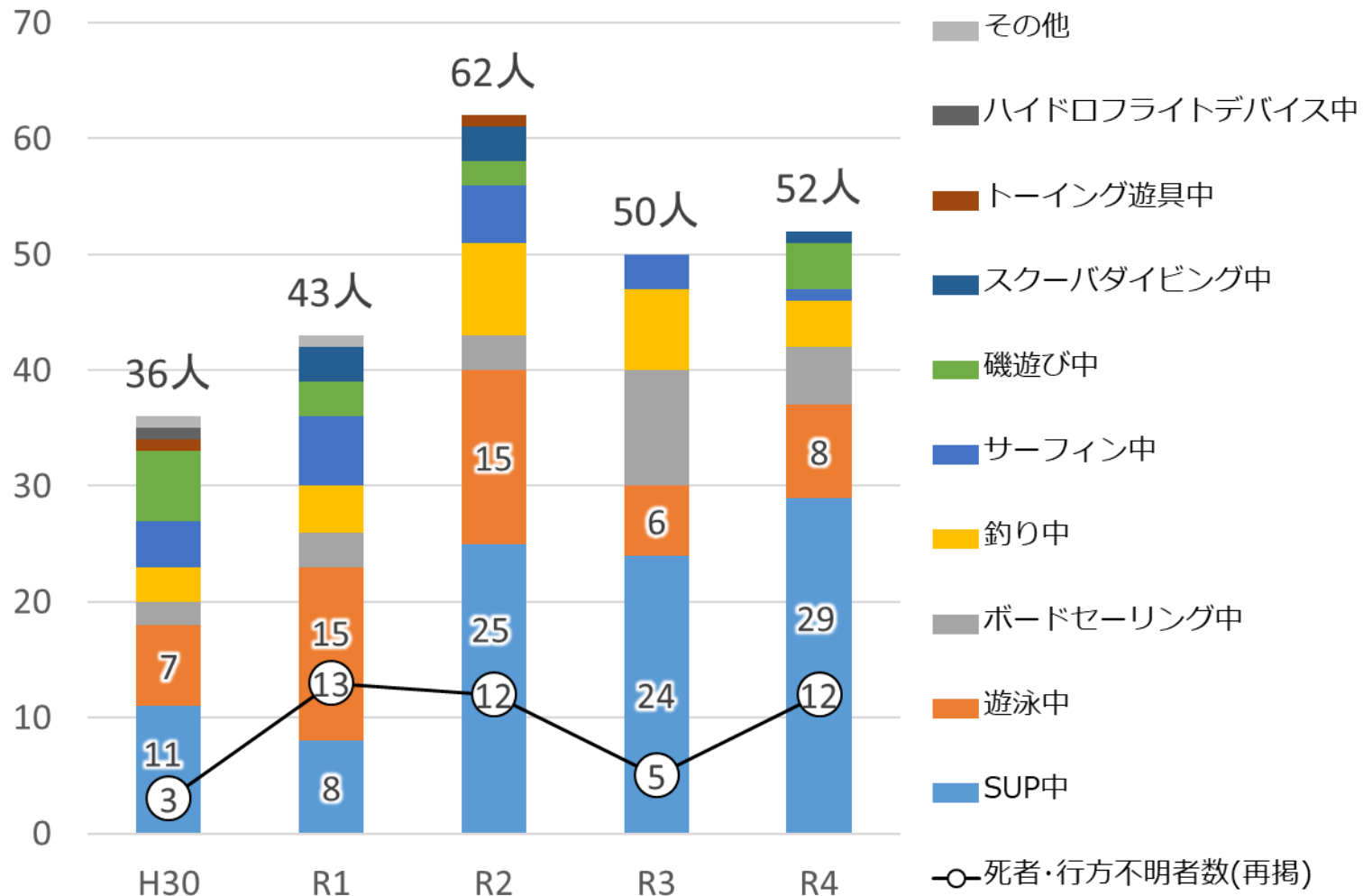
**運航不能(機関故障、舵障害、無人漂流)が最多で全体の4割以上。  
運航不能25隻のうち21隻(84%)がプレジャーボート。**

## ② 人身海難の発生状況(H30～R4、横須賀海上保安部／湘南海上保安署管内)



マリンレジャーに伴う海浜事故が約半数を占める。

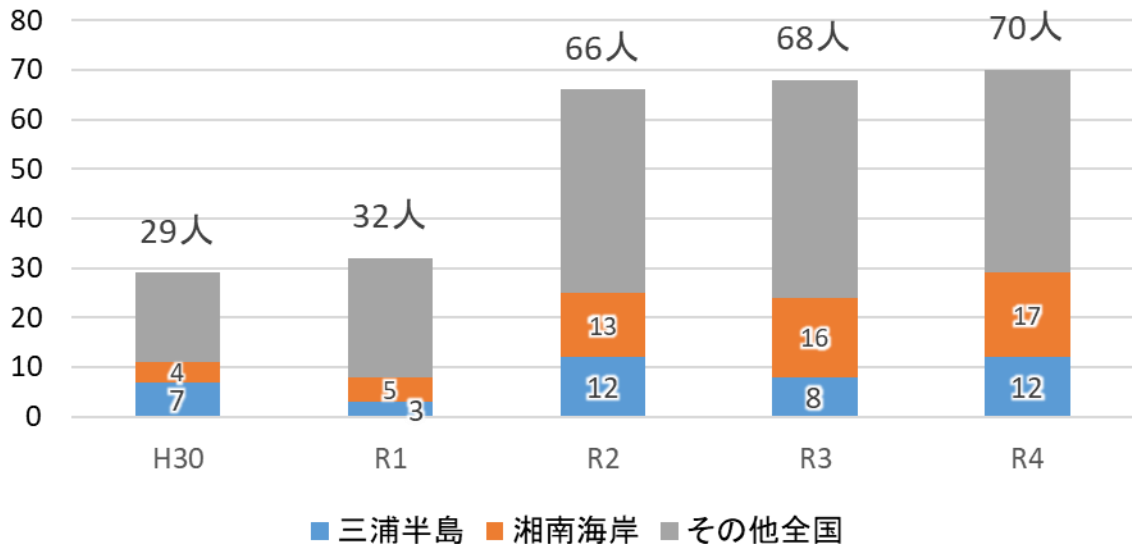
③ マリンレジャーに伴う海浜事故の活動種類別発生状況(H30~R4、横須賀海上保安部／湘南海上保安署管内)



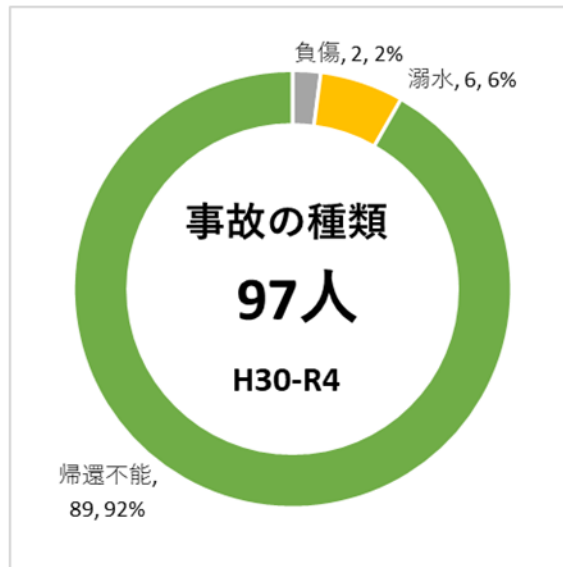
活動種類別発生数第1位は、SUP中。  
 死者・行方不明者数は、遊泳中が最も多い。

# ④ SUP海難の発生傾向(H30~R4、横須賀海上保安部／湘南海上保安署管内)

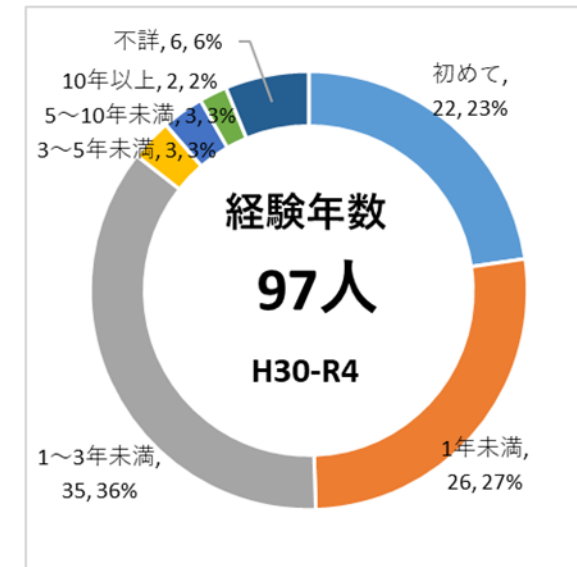
令和2年に急増、以降三浦・湘南地域の発生数は全国の約4割



帰還不能が9割



初心者(3年未満)が約9割

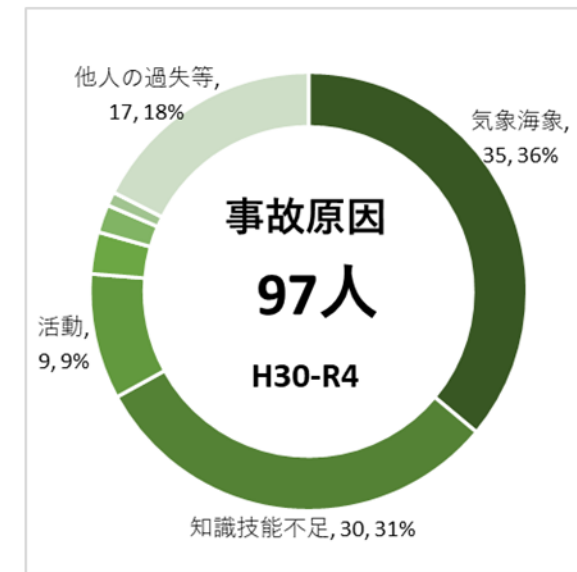
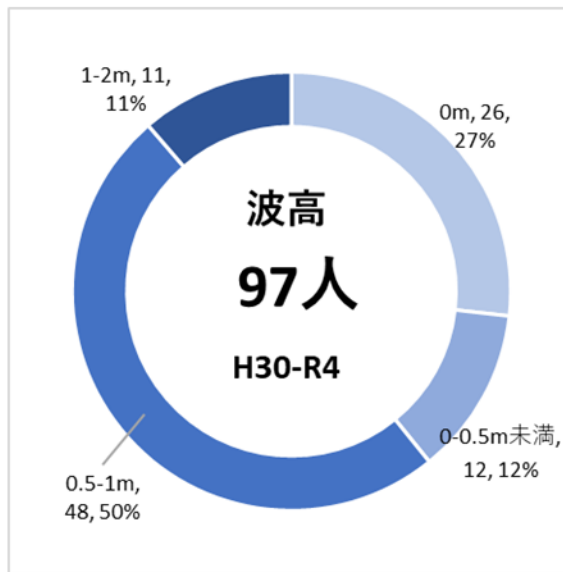
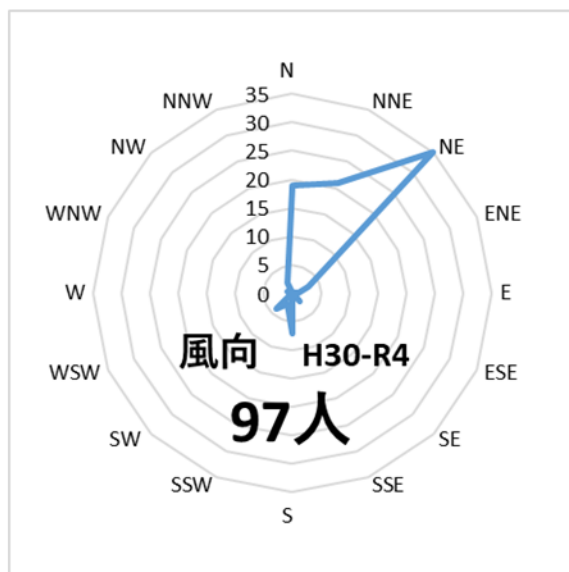
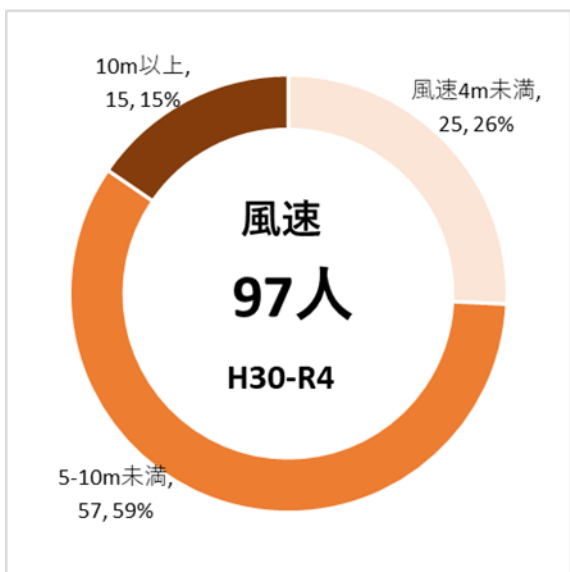


風速5m以上が7~8割

北~北東の風が約8割

波高0.5m以上が6割

気象海象/知識技能不足が約7割





## ⑤ 最近の事故事例等

### 1 プレジャーボート海難

#### ア 令和4年7月、浦賀水道航路内ミニボート漂流

- ➡ ミニボートが観音埼沖を航行中に燃料が切れ、手漕ぎに切り替えたが、風潮流の影響で浦賀水道航路内に流され、同航路内航行中の大型船が同ミニボートを避航する事態となった。

東京湾海上交通センターは事故防止のため浦賀水道航路を航行中の船舶に注意喚起を実施した。

#### イ 令和4年6月、プレジャーボート浦賀水道航路漂流横断

- ➡ プレジャーボートが観音埼沖で漂流（機関断）して遊漁後、機関再起動できず漂流。

浦賀水道航路を漂流横断後118番通報。原因はバッテリー過放電。



### 2 マリンレジャー海難

- ア SUPの帰還不能・・・【原因】風潮流、SUPに穴が空く、足がつって漕げない等

- イ 遊泳中の溺水・・・【発生場所】海水浴場以外の場所に限る。